

<別紙1>

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

株式会社R-CORPORATION

②施設・事業所情報

名称：たまプラーザ小桜愛児園	種別：認可保育所	
代表者氏名：矢澤 亮	定員（利用人数）：90（97）名	
所在地：〒225-0003 横浜市青葉区新石川2-3-15 ディアコートサウス2.3F		
TEL：045-507-7767	ホームページ： https://tamaplakozakura.sakura.ne.jp/	
【施設・事業所の概要】		
開設年月日：2018年04月01日		
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人 小桜会		
職員数	常勤職員：16名 非常勤職員：7名	
専門職員	（専門職の名称）：名	
	保育士：22名 子育て支援員：2名	
施設・設備 の概要	（居室数） 居室：0歳児室	（設備等） 設備：厨房
	居室：1歳児室	設備：調乳室
	居室：2歳児室	設備：ほふく室
	居室：3歳児室	設備：医務室兼事務所
	居室：4歳児室	設備：幼児用トイレ
	居室：5歳児室	設備：面談室
		設備：屋上遊戯場
	設備：エレベーター	

③理念・基本方針

<理念>

一人ひとりを大切にした健やかな育成

<基本方針>

豊かな人間性を育める保育や環境の創造

<保育目標>

1. 体育を通じた元気な身体
2. いっぱい遊び、たくさん学ぶ
3. 夢と希望にあふれる心

④施設・事業所の特徴的な取組

<たまプラーザ小桜愛児園の特徴的な取組>

1. 体育を通じた元気な身体
・歩く、走る、跳ぶなど戸外での活動を十分に楽しむ。

- ・健康で十分な発育ができるよう薄着の習慣を身につける。
- ・運動や休息、栄養をとり、規則正しい生活をおくり、自ら安全を守るような生活習慣及び態度を身につける。

2. いっぱいあそび、たくさん学ぶ

- ・積極的にあそびや生活ができるようにし、自主協調といった社会生活の基礎となるような態度を養う。
- ・相手の人権を尊重し、思いやりのある心を育てる。

3. 夢と希望にあふれる心

- ・生活の中でことばへの興味や関心を育て、豊かな情操、思考力、表現力の基礎を培う。
- ・自然の世界に多く触れ、豊かな体験を通して自分なりに物を見たり感じたり考えたりして、豊かな感性と創造性の芽生えを培う。
- ・自然に対する知的興味や関心を育て、思考力、認識力を培い、科学的に観察する力を養う。
- ・友だちと関わり活動する中で、正しいと思うことを分かりやすく話し、行動する力や、困難に立ち向かい我慢する力を育む。
- ・くつろいだ雰囲気の中で情緒が安定し、意欲的にあそぶ力を育む。
- ・食事、排せつ、睡眠、着脱衣、清潔などの正しい習慣を繰り返し自立の芽生えを養う。
- ・身の回りの簡単なことは、自分で処理する力を育む。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2024年04月09日（契約日） ～ 2024年10月15日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	1回（2019年度）

⑥総評

【たまプラーザ小桜愛児園の概要】

●たまプラーザ小桜愛児園（以下、当園という。）は、社会福祉法人小桜会（以下、法人という。）の運営です。法人は、児童福祉施設の推進を図り、乳幼児に対し人間形成の基盤を健全に育成することを目的とし、横浜市に3園（青葉区2園・都筑区1園）の認可保育所を運営しています。法人名に因み姉妹園3園には、桜が育つために必要な栄養素を名前(SUN:小桜愛児園、WATER:中川小桜愛児園、SOIL:当園)に付け「KOZAKURA BLOSSOMS」としています。最適な環境の中で、たっぷりと栄養を取り十分に満足して健やかな成長ができるようにとの思いです。また、それぞれの保育園の特徴を生かして、園庭開放、育児相談、一時保育事業等の地域子育て支援事業に取り組むと共に、日々の保育の中では子どもの主体性に着目し、一人ひとりに寄り添った保育を提供しています。

●当園は、東急田園都市線「たまプラーザ駅」から徒歩3分程のアクセスの良い位置にあります。駅周辺は東急電鉄の開発による充実した商業施設と新興住宅地が広がり、緑が多く四季折々の自然豊かな公園も点在し、散歩コースに恵まれています。利便性が良い事からも周囲には10か所以上の保育園があります。園舎は、色とりどりのガラス窓があるモダンな造りで、鉄筋コンクリート4階建の2・3階に保育室があり、屋上園庭も有しています。室内は、窓から差し込む光で明るく温かい雰囲気です。各年齢の保育室の他、広々としたホール（兼廊下）、屋上園庭には固定遊具も設置しています。

●当園の定員は90名、0歳～5歳児までの保育を実施し、現在97名の園児が在園しています。全職員は、保育理念「一人ひとりを大切にした健やかな育成」を基に、子どもたちが発する意見やクラスから出た意見を取り入れながら、子どもたちの主体性を考えた保育、自分で考え行動できる子どもたちを目指して日々の保育を行っています。保育室のあちこちから、子どもたちの「〇〇やりたい」「〇〇が楽しい」の声が聴かれ、活力と笑顔が溢れる保育園です。

◇特長や今後期待される点

1. 【豊かな環境】

当園の特徴の1つに、豊かな環境が挙げられます。周辺には公園も多く、子どもたちが四季折々の自然に触れて伸び伸び遊べる環境です。また、広々とした屋上園庭もあり、水遊び、戸外遊びが楽しめます。室内もゆったりとした空間があり、3階の「ホール」と称される廊下を兼ねたスペースでは、子どもたちが自由に製作活動や体育遊びを行い、コーナー遊び等を楽しんでいます。調査日には、子どもたちの発想から、廃材を使って製作中の「テント」が飾られていました。当園には特徴ある知育玩具が多く、例えば、子どもの手に合うサイズの透明な立方体アクリルの中に、植物の花や種（36種類）が入られ、子どもたちは手に取り、上から、下から、横からと観察しています。また、人体の構造が分かる木製パズルもユニークです。中でも、子どもたちが興味津々な玩具は、虫や鳥が卵から成長していく過程をリアルに再現した様々なフィギュアです。実際に手に取り、見て触れて、図鑑で調べてみる等の活動が見られ、子どもたちの「おもしろい」・「やってみたい」等々、保育目標「いっぱい遊び、たくさん学ぶ」・「夢と希望にあふれる心」につながっています。

2. 【体育遊びを通した身体作り】

当園では、日々体育遊びを取り入れた保育活動を行っています。朝の体操から始まり、年齢に合わせたリズム運動、リトミック、体育遊具を使った運動遊びを取り入れ、身体を動かす楽しさと喜びを感じられるよう取り組んでいます。また、外部講師による体操教室を各年齢に応じて、年4～10回実施しています。その他、課外教室としても週1回、4・5歳児対象のスイミングスクール（東急スイミングスクールたまプラーザ）、年40回3～5歳児対象のダンスレッスン（ワンプレイ）があります。調査日での1歳児クラスでは、大きな木製のトンネルをくぐったり、よじ登ってみたり等、全身を動かして楽しんでいました。4歳児では運動会に向けて、パラバルーン遊びを音楽に合わせ、皆で協力しながら取り組む姿が見られました。年長児は、縄跳びや組体操に取り組んでいます。子どもたちは、身体を動かすのが楽しくてたまらない様子で、保育士と一緒に歓声を上げて楽しんでいます。

3. 【主体性を育む保育】

全職員で「子どもの主体性とは何か？」・「保育理念・方針を踏まえた目標の達成に向けて」について、保育実践から検討・討議しながら、学び合っています。毎日の昼礼時には報告会を設け、各クラスの取組と子どもの目標及び幼児期の終わりまでに育てて欲しい10の姿との照合について、事例を挙げて検証し、次への目標達成につなげています。職員は、常に子どもの「表情」、「仕草」を観察し、「つぶやき」に傾聴し、「意見」や「提案」を受容する等、一人ひとりに寄り添う保育実践に努めています。当園のモットーに「園生活を送る中で、子どもも大人も主体的に過ごす。」を掲げ、子どもと保育士で「楽しい保育」の実現を目指しています。当園の行事予定に「お店屋さんごっこ」（8月末）があり、子どもたちの発想を生かした製作に取り組んでいます。調査日には3歳児の製作「サボテン」が陳列されていました。子どもたちが黄・緑色等の紙粘土を練り

込んで形を作り、トゲ（細いストロー）を刺して完成させたものです。そのユニークな形に個性が溢れ「みんな違ってみんないい!!」印象でした。今回の利用者保護者アンケートに「園全体で子どもを見ている」、「子どもに寄り添って関わっている」、「どの先生も明るく優しい」、「安心して預けられる」等々の意見が多く寄せられ、保育への満足が窺われます。

4. 【地域の福祉ニーズへの対応】

園長は、日本保育協会横浜支部に所属し、各種の会議や研修にて全国的な情報を入手すると共に、地域における子育て支援施策について、法人施設長会、青葉区園長会、私立保育園園長会、幼保小連絡会等で福祉ニーズの把握に努めています。また、定期的に「たまプラーザ地域ケアプラザ」の子育て支援事業に参加し、関連団体との交流を図り、当園の子育て支援事業の方向性を模索しています。現在の子育て支援事業（園庭開放、給食体験、育児相談、交流保育、一時保育等）ですが、職員からの提案「食育体験」・「茶話会」や「課外活動の実施」等も視野に、より地域のニーズに沿った事業を推進していくと計画しています。地域全体の活性化を図ることが、地域に利用者が開かれた保育園となり、地域に根付いて運用していくことにつながると、中・長期のビジョンにも掲げています。これからの積極的な取組に期待します。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

施設名 たまプラーザ小桜愛児園

《第三者評価を受審した感想・自己評価での取組の感想》

たまプラーザ小桜愛児園では、開所後2回目の第三者評価受審となりました。第三者評価を通して、職員の日頃言葉に出していないこと、それぞれが大切にしていることなどを共有することが出来た良い機会となりました。今回の取組で新たな気付きや、保育について語り合ったことで、自分たちの目指す方向性がより明確になったと感じております。

たまプラーザ小桜愛児園が地域に根付き、求められる保育園として運営していくためにも、引き続き保育の質の向上、子どもたちのより良い成長のために、保育に対する意識と責任を職員一人ひとりがしっかりと持ち、子どもも利用者も保育士も笑顔があふれる保育園を目指してまいります。

最後になりますが、保護者の皆さま。お忙しい中アンケートにご協力をいただき誠にありがとうございました。高い評価と職員が元気や勇気をもらえるコメントは、私たちの保育に自信を持ち、今後の励みとなりました。ご意見ご要望に関しましては、職員全体で検討する機会を持ち、さらに保育の質の向上に努めてまいります。

《評価後取組んだこととして》

1. 職員間で園運営について話し合い、共有と認識の統一を図る
2. 配布物や説明会の資料等を見直し、利用者への分かりやすさを目指す
3. 連絡帳機能(ICT)の変更や、サブスクの導入について検討
4. 防犯対策の強化として、園内の監視カメラの設置を検討

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり